

《専門教育科目 実習関連科目 保育実習》

科目名	保育実習 I (1回生)				
担当者氏名	原田 邦子、田村 みどり、歳國 順子、中島 美智子				
授業方法	実習	単位 卒業の必修・選択	0・選択	開講年次・開講期	1年・後期
科目／施行規則に定める 科目区分又は事項等	○ (保) - 保育実習				

《授業の概要》

保育士をめざす学生にとって「保育実習」は保育士資格を取得するための必修科目として位置付けられている。実習は、保育の現場において学内で学んだ保育の知識や技術を生かして、子どもと直接関わる中で、子ども理解や実習施設への理解を深め、保育の実際を体験的に学習する過程である。この実習では保育に参加し、実習する保育所の保育の目標、保育所の一日の流れや乳幼児の発達過程を理解する。そして、養護と教育が一体となって展開される保育内容や、保育の計画や方法、観察・記録等について具体的に学ぶ。また、保育の実際を通して、保育士の業務内容やチームワーク、家庭との連携について具体的に学ぶ。そして、専門職としての保育士の役割と職業倫理について理解する。

《授業の到達目標》

1. 保育所の役割や機能について実践を通して理解し、基本的な知識を身につける。
2. 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。
3. 子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

《成績評価の方法》

実習への意欲、実習態度、実習施設の評価（保育所実習記録を含む）に基づき総合的に合否で評価する。

《参考図書》

『保育実習の手引』（実習指導室発行）  
『保育者と学生・親のための乳児の絵本・保育課題絵本ガイド』福岡貞子・磯沢淳子編著（ミネルヴァ書房）

《教科書》

『学生・養成校・実習園がともに学ぶこれからの時代の保育者養成・実習ガイド』大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田沢里喜編著（中央法規出版株式会社）

《科目番号／担当形態／免許資格の必修区分／備考》

科目番号：A09  
担当形態：クラス分け  
幼稚園教諭：－  
保育士：必修

《担当教員の実務経験と授業の関連》

保育所所長等の勤務経験をもとに、実践的な演習を行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容／学習課題【予習復習・時間】
1	第1日目	実習先の指示に従い保育実習を行う/保育日誌に本日の実習内容を記録する【60分】
2	第2日目	実習先の指示に従い保育実習を行う/保育日誌に本日の実習内容を記録する【60分】
3	第3日目	実習先の指示に従い保育実習を行う/保育日誌に本日の実習内容を記録する【60分】
4	第4日目	実習先の指示に従い保育実習を行う/保育日誌に本日の実習内容を記録する【60分】
5	第5日目	実習先の指示に従い保育実習を行う/保育日誌に本日の実習内容を記録する【60分】
6	第6日目	実習先の指示に従い保育実習を行う/保育日誌に本日の実習内容を記録する【60分】
7	第7日目	実習先の指示に従い保育実習を行う/保育日誌に本日の実習内容を記録する【60分】
8	第8日目	実習先の指示に従い保育実習を行う/保育日誌に本日の実習内容を記録する【60分】
9	第9日目	実習先の指示に従い保育実習を行う/保育日誌に本日の実習内容を記録する【60分】
10	第10日目	実習先の指示に従い保育実習を行う/保育日誌に本日の実習内容を記録する【60分】
11	第11日目	実習先の指示に従い保育実習を行う/保育日誌に本日の実習内容を記録する【60分】
12	第12日目	実習先の指示に従い保育実習を行う/保育日誌に本日の実習内容を記録する【60分】
13		
14		
15		

《専門教育科目 実習関連科目 保育実習》

科目名	保育実習 I (2回生) 前期				
担当者氏名	飯尾 雅昭、佐藤 剛				
授業方法	実習	単位 卒業の必修・選択	0・選択	開講年次・開講期	2年
科目／施行規則に定める 科目区分又は事項等	○ (保) - 保育実習				

《授業の概要》

保育実習 I (4単位) は保育士必修の現場実習である。1回生時には保育所実習 (2単位) を経験するが、2回生においては保育所以外の児童福祉施設での実習 (2単位) となる。実習先は、乳児院や児童養護施設、障害児 (通園・入所) 施設及び障害者施設など種別が多様であるが、その中の1つを実習することになる。施設種別によって、その対象(子ども・利用者) がちがいが、その特性や施設目的・機能も異なるので、事前によく実情を把握し学習したうえで、実習に臨むこととなる。対象や施設が異なっているにもかかわらず、実習で取り組むことは基本的には共通しているため、下記の到達目標に示されている内容を2週間の実習を通してしっかりと修得するように努めること。

《授業の到達目標》

1. 児童福祉施設 (保育所以外) の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や関わりをとおして子ども (利用者) への理解を深める。
3. 子どもの保育 (養護) 及び利用者への支援について総合的に理解する。
4. 保育 (養護・支援) 計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

《成績評価の方法》

実習態度、実習施設の評価 (保育所実習記録を含む) に基づき総合的に可否により評価する。

《参考図書》

必要に応じ、適宜プリントやワークシートを配付する。

《教科書》

『保育実習の手引【第10版】<福祉施設編>』  
(実習指導室発行)

《科目番号／担当形態／免許資格の必修区分／備考》

科目番号：A09  
担当形態：クラス分け  
幼稚園教諭：－  
保育士：必修

《担当教員の実務経験と授業の関連》

この授業の出席状況・受講態度・提出物が良好であることが実習参加の条件となる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容／学習課題【予習復習・時間】
1	オリエンテーション (施設実習の意義と目的)	『保育実習の手引【第10版】<福祉施設編>』を事前によく読み込んでおくこと。 「保育実習 I」における「施設実習」の意義を理解する
2	実習に必要な準備と手続き	実習の段階を学び、実習生カードを作成する
3	実習施設を理解する①	実習施設の理解を深める 事前訪問等についての準備をする
4	実習施設を理解する②	実習施設の種別内容を理解し、自らの課題を明確にする
5	実習施設を理解する③	福祉施設の現状と利用者への支援方法を理解する
6	施設現場の理解 ①「乳児院」	乳児院の実際と保育士の職務内容の理解
7	施設現場の理解 ②「児童養護施設」	児童養護施設の実際と保育士の役割・職務内容の理解
8	施設現場の理解 ③「障害児施設」	障害児施設の実際と保育士の役割・職務内容の理解
9	施設現場の理解 ④「障害者施設」	障害者施設の実際と支援員の役割・職務内容の理解
10	実習における観察と記録	実習日誌等の具体的な内容を確認し記述方法を学ぶ
11	プライバシーの保護と 守秘義務	保育士の役割と倫理利用者プライバシーと守秘義務の徹底を学ぶ
12	実習直前の準備と心構え	実習上の心構え・留意事項について学ぶ
13	事後学習 ①実習体験の報告	施設実習の振り返りを行い、実習成果及び反省課題を報告する (所感作成)
14	事後学習 ②振り返りと共有	自己評価と課題の確認及び体験発表による共有化「課題研究による授業保障」
15	事後学習 ③今後の課題と学習目標	実習成績評価票による指導を受け、今後の課題と学習目標を確認する「課題研究による授業保障」